



青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気をおみなさまに発信する「ボランティアライタース」の方によるレポートをお届けします。

EVENT REPORT

平成 29 年
7 月 15 日 [土]

パンフレットには「マジックの領域を超えた華麗なる最新視覚効果ショー 幻・想・師 ~ neo Japanese style」とある。別のちらしには「Visual Illusion & Magic WIZ」「3D SHOW FX」ともある。どうやらステージマジックとエンターテイメントを合わせたショーらしい。このような大がかりなショーが青葉の森公園芸術文化ホールで行われることは滅多に



WIZ ~ 幻・想・師 ~

ないのでワクワクと出かけた。会場は夏休みに入った子ども達で賑わっていた。この公演に先立つて各地の幼稚園で実施してきたプロモーション活動の成果かもしれない。幕が開くと私たちは一気に WIZ の世界に引き込まれる。マリィとサーシャという 2 名の女性を軸として、宝塚歌劇団出身女優やダンサー、マジシャンなど 10 数名が、和物・洋物の華やかなパフォーマンスを繰り広げる。



出演
マリィ
サーシャ
ゲスト
デビッド・ラムゼイ
ヤッチマツタゼ・ブラザーズ
ほか

人体消失・出現・圧縮・浮揚・・・タネがあるとは知りながら、やはり不思議である。時折コミカルなステージが入り、観客との距離を縮める工夫も随所にみられた。観客席からアシスタントを募って舞台にあげたり、ボールなどのプレゼントを席に向かって投げたり。なかでも、NY 出身のゲスト、デビッド・ラムゼイは、本当はとても難しいであろう「輪車やジャグリングを軽々と、時々わざと間違えながら、子どもと楽しいやりとりを見せてくれた。事前に募集したマジック教室に参加した子ども達によるショーもあった。こんな華やかな舞台に立てて、一生忘れられない思い出になったのではないだろうか。ロビーでは様々なマジックグッズを販売していた。きつと、帰宅して興奮さめやらぬまま手品にトライした子どもたちもたくさんいたのでは？

「幻・想・師」、『マジックの領域を超えた華麗なる最新視覚効果ショー 子どもたちに最高の瞬間を』と書かれたプログラムを手にした時は少し怖い印象をもちました。協賛企業支援による芸術鑑賞プロモーション活動を積極的におこない子どもたちにもイリュージョンやマジックの魅力を広め、たくさんファンがいることを知りました。サーシャとマリィを中心に元宝塚歌劇団員、ダンサー、日本舞踏家、俳優、そしてゲストとしてヤッチマツタゼ・ブラザーズとデビッド・ラムゼイなどパフォーマーの総勢 14 名の多彩な面々がこのショーを盛り上げました。さらに影の功労者（裏方スタッフ）の方たちの協力も素晴らしいものでありました。その努力の結果が会場のこともたち、観客の多さにつながっているのだと納得しました。

プログラムは二部構成でどちらも迫力ある大音響の中で目まぐるしく変化する舞台にどんどん引き込まれていくように感じられました。何と言っても観客参加型の舞台は楽しい演出だと思えました。ひとつは観客の中から素敵な男性が手錠をかけられ

ロチン台へ。大根の試し切りもあり、こどもたちはドキッとしたのではないかと思います。また、十一人のサングラスをかけた、ちびっ子達がかつこよく並んだ姿は決まっていた。オーディションで決定しただけあって度胸もあり、堂々と演じていて頼もしかったです。ジャグリングのお手伝いを希望した男の子もあふたとする様子が可愛く、とても楽しかったです。こんな形で舞台と客席が一体となるショーもいいものだと思います。子どもたちへのアピールも盛りだくさんで舞台に興味を持った子どもが多かったのではないかと思います。



写真 / ボランティアカメラマン 田邊 定行

ボランティアライタースなのは